

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で用いられている AI 等のテクノロジーが持つ機能や役割、実例などの基礎的な情報を自分の言葉で説明することができる ・簡単なプログラムを使って実際に AI を動かすことができる <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的課題について調べ、AI 等のテクノロジー活用した解決方法を提案することができる ・AI が人々、社会にとって正しく活用されるための倫理的判断をすることができる ・テクノロジーが人間個人、社会に与える影響を考察することが出来る ・上記事項について、他者に適切に提示/説明することができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI や新たな技術開発、イノベーションについてより深く知ろうとし、それをういて解決しようとする姿勢を持つことが出来る ・社会的課題に向き合う中で、AI などに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、人間の本来の生き方について追求することができる 	
下位学習目標	
<p>【知識・技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実際に AI を社会で活用する人を通じて、社会で用いられている実践的な AI 活用に関わる知識を獲得することができる ②社会課題解決のために、2 年で AI を動かした経験と、社会課題に関わる客観的なデータを基に AI を活用した具体的な提案をすることが出来る <p>【思考力・判断力・表現力】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①AI を活用した社会課題の解決案について、議論などを通じて他者と協働して創造することができる ②AI を活用した社会課題の解決案について、倫理的な判断を加味することができる ③AI を活用した社会課題の解決案について、他者に分かりやすく提示し、他者の考え方や生き方に影響を与えることができる <p>【学びに向かう力・人間性】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①AI や新たな技術開発、イノベーションについて、自発的に調べ知識を追い求めることができる ②社会課題に向き合う中で、AI などに代表されるテクノロジーと上手に共生する必要があることに気づき、自分の生き方について追求することができる 	

授業日	6/6(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回			
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①② 【思考力・判断力・表現力】①②③ 【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・ 10 分間発表+20 分 Q&A の中で、自分たちの仮説を説明することが出来る ・ フィードバックを受け、さらに情報の収集方法まで考察することが出来る ・ 生成 AI についての講義動画を観て、その在り方を考察することが出来る					
時間 授業内容	90	・ 教員 2 名に対して、10 分間発表+20 分間 Q&A ・ 各発表後に、渡されたワークシート【改】に取り組み、自分たちの仮説を再考する				
評価方法	ルーブリックは事前に提示せず、全グループの発表後、評価後に全グループに提示。 10分間プレゼン+20分間Q&A					
	学習目標	観点	説明	A	B	C
	【知技②】	社会課題の具体性 (ワークシート「社会課題編」)	先行研究に基づいて、社会課題の内容が具体的に説明されているか	社会課題の内容の説明が、先行研究にしっかりと基づいた具体性に富むものである	社会課題の内容の説明が、先行研究にある程度基づいており、具体性も一部見受けられる	社会課題の内容の説明が、先行研究にあまり基づいておらず、具体性に欠く
	【知技①②】	発表 Q&A 活用するAIの妥当性 (ワークシート「AI活用編」 「AIを考えるプロセス編」)	どのようなAIを活用するかについて明確に説明されているか	AIについての知識、活用方法について問題なく正確に説明することができる	AIについての知識、活用方法について比較的正確に説明することができる	AIについての知識、活用方法について不明確な部分がある
	【知技②】 【史料表③】	論理的な仮説/ストーリー	主張したい仮説/ストーリーについて、先行研究に基づいた論理的な説得力があるか	社会課題とAI活用の関係と得られる結果を、非常に論理的に仮説立てることができる	社会課題とAI活用の関係と得られる結果を、一部論理的に仮説立てることができる	社会課題とAI活用の関係と得られる結果を、あまり論理的に仮説立てることができない
	【史料表①】	グループ活動の協働性	役割分担を明確にして協働活動を行っていたかどうか	グループ内でかなり明確に役割分担をして協働して活動に取り組んだ様子が伝わった	グループ内である程度役割分担をして協働して活動に取り組んだ様子が伝わった	グループ内で役割分担をして協働して活動に取り組んだ様子があまり伝わらなかった
	【人間性②】	自分/グループが関わる理由	その社会課題に関わる自分たちの思いについて語る事ができるか	自分たちがその社会課題に関わる理由や意図をしっかりと表現できている	自分たちがその社会課題に関わる理由や意図をある程度表現できている	自分たちがその社会課題に関わる理由や意図が不明確である
	チェックリスト <input type="checkbox"/> 最低5つの文献に言及している <input type="checkbox"/> 上記5つの文献の内、3つが本である <input type="checkbox"/> 6つ以上の文献に言及している <input type="checkbox"/> +1分間の発表に取まっている <input type="checkbox"/> 全員がプレゼン/Q&Aで発言した					
宿題指示	「生成 AI がもたらす衝撃：関西学院高等部特別講義」を視聴し、学びの記録を記入					
	観点1 知識 A 正確且つ論点をまとめて記述できている B 正確な情報を記述している C 正確な情報が記述されていない					
	観点2 考察 A 知識と意見の有機的なつながりとクリエイティブな広がりが見られる B 知識と意見の有機的なつながりが見られる C 短絡的、表層的な感想や意見にとどまっている					